

第9回 観音寺市民会館開館準備実行委員会【要約】	日時 平成27年9月28日(月)19:00~21:00
	場所 観音寺市役所 2階 201会議室
出席者	委員14名、事務局4名、事務局補2名
議題	(1)第8回議事録(要約)について (2)開館記念事業について (3)その他
<p>1. 開会 開会のあいさつ。</p> <p>2. 委員長あいさつ 委員長のあいさつ。</p> <p>3. 議題 <u>(1)第8回議事録(要約)について</u> 資料を元に議事録(要約)について説明。確認の後、内容を承認。 承認された議事録を市のホームページで公開する。</p> <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をやるのかということが目的化してしまっている。本来の目的である、「なぜその事業を実施するのか」という視点が全く欠けているという指摘を前回の会議でさせていただいた。 ・これまでの議論は管理運営計画の基本的な考え方を理解していないのか、理解しているというのならば否定しているかとか考えられない。善意と取るならば、委員に負担をかけさせないために今回は何をやるかに焦点を絞って議論を行っているということなのだろう。いずれの考え方で本委員会を運営していくかについては、今後の進捗を見て私なりに考えさせていただく。 <p>【事務局意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理運営計画の策定にあたり、その中で事業計画について十分に協議をしたと認識している。この度市からたたき台として示した開館記念事業等は、管理運営計画で議論された基本理念などを踏まえて提案させていただいた。細かい部分については説明不足な部分があったかもしれないが、たたき台を基に、具体的な内容についてご議論をいただきたい。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつひとつの事業を5W2Hまで積み上げないと、事業計画とはいえない。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枠については管理運営計画で議論が済んでいると認識している。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はそうは考えていない。計画そのものに詰め切れていない部分がある。事業計画とは何かという基本の部分を理解していないのではないか。 ・こけら落としの場合は、育成をするという目的が明確にあり、子どもたちを中心とした演目に決定した。開館記念事業は、そのような目的の部分が欠けている。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こけら落としは新しい市民会館の性格を決めていくものとなる。そういった視点から開館記念事業を考えていくということである。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由付けがされずに個別の事業の具体名だけが挙げられていると感じる部分もある。誰でもよいのか、という点に関しては私も疑問がある。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常3万円の公演が開館記念として1万5千円で観られるというだけで、理由付けが感じられないと、何のためにその人を呼んだのかという疑問が市民の皆さんに残るのではないか。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来であれば細かく議論するべきとは思いますが、また管理運営計画を策定する際の経過も含めて、ある程度目的性を示した上で事業計画を作っていると認識している。開館を29年4月に 	

控えているという時間的制約もあるので前に進まねばならない。その部分の議論は済んだとご了承いただけたらと思う。

(2)開館記念事業について

第7、8回の続きとして、開館記念事業についての議論を行う。
事務局補佐より、各地で行われた開館記念事業の事例についての説明。

【委員質問】

- ・各施設とも、劇場の特色を捉えた、またその土地の風土にあった演目を開館記念事業としていているという印象を受けた。市外からの視点では、観音寺市にはどのような演目がよいと考えるか。

【事務局補佐意見】

- ・どのような演目が良いのかと特定することは難しいが、先程ご発言があったように単に事業を行えばよいというわけでは無い。「今後の育成事業に繋げていくためにこの演目を行う」というのも、明確な意志をもった考え方と思う。
- ・これまでに観音寺市内であまり行われなかったり、普段見る機会のない事業、例えば現代演劇や現代舞踏などを、皆さんに紹介するという意味合いで開館記念事業に盛り込むという考え方もある。
- ・管理運営計画にもある通り祝祭性を持たせ、様々なジャンルの公演を行い、音楽や舞台芸術の多彩な演目を開館記念事業として行うという場合もある。
- ・音楽系の公演においても、クラシックやポップスなど親しんだ音楽だけではなく、様々な音楽に触れる機会を持つという観点から、現代音楽公演を上演するなども考えられるのではないか。

【委員意見】

- ・地元出身の方やゆかりのある方の公演も記念事業等ではよく行われている。

事務局より前回の委員会で委員より推薦のあった公演についての経過説明。

【委員質問】

- ・予算もひとつの尺度だと思うが、例えば国内オーケストラ A は1公演いくらかかるのか。

【事務局回答】

- ・国内オーケストラ A は毎年夏に四国地方で公演を行っており、日程と予算の都合がつけば公演が可能と返事を頂いている。金額については、現段階では概算費用だが、1,000万は超えるだろう。例えば1枚7,000円のチケットで840万の入場料収入があるとすれば、実現不可能ではないと思う。

【委員質問】

- ・海外オーケストラは、どの程度の費用がかかるのか。

【事務局回答】

- ・まだラインナップを確認した段階なので金額は不明であり、オーケストラによって金額に差がある。

【委員意見】

- ・海外オーケストラ A や海外オーケストラ B、海外オーケストラ Cなどは招聘が難しいだろう。
- ・海外オーケストラ A は以前倉敷市民会館が招聘していた。
- ・海外オーケストラ D は面白いのではないかと。若い人が多いオーケストラで、ノリの良い楽しいオーケストラである。指揮者個人も人気がある。

【委員意見】

- ・若い人はあまり高いチケットを買う余裕がないのではないかと。

【委員意見】

- ・このオーケストラはあまり高い値段にはならないのではないかと。

・海外オーケストラ D について説明。また、指揮者は人気のある方なので、集客も期待できるのではないかと。

【委員意見】

・海外オケであればマスコミが取材してくれることも期待できる。

【委員意見】

・海外オーケストラ A は招聘したいが、東京の公演でもチケット料金が 2~3 万円するので、2,000 万はくだらないだろう。

【委員意見】

・海外オーケストラ A ならば、補助があってもチケット代は 1 万円以上になるが、市外からの集客も見込める。市外からも集客できるオーケストラを招聘するか、市民が入りやすい価格に設定できるオーケストラを招聘するかで選び方が変わる。

【事務局意見】

・市外からの集客を前提に考えると、市のお金を市外に還元することになるのでどうかという思いもある。

【委員意見】

・海外オーケストラ A などを招聘すれば、ホールとしての格がひとつ上がる。

【事務局意見】

・個人的な意見ではあるが、将来的には地域密着型のホールになっていくのではないかと考えており、市民や周辺地域の方々に観ていただくという比重が高くなると思う。本来であれば市民や周辺地域向けの演目は自主事業で、祝祭性のある演目や施設をアピールする演目は記念事業でそれぞれ行うことが出来れば良いと思うが、そのためには多額の予算が必要となる。

・実行委員会では、記念事業について議論していただいております。祝祭性のある演目ということで、海外オーケストラのラインナップも確認した。ご意見をいただければと思う。

【委員意見】

・採算のとれるものは指定管理者の事業として今後も行える可能性があるとするならば、開館記念事業は今後実施が難しい演目を、という考え方もあるのではないかと。

【委員意見】

・市外の人に還元するのは、という思いも理解できるが、やはり一度しか出来ない演目を大切にしたい。

・例えば、1 万円のチケットをどれだけの市民が購入するのかが疑問である。市外や県外からも集客できる演目を行うのであれば、厳しいのではないかと。

・市内にも音楽活動をしている方はいるが、チケットの販売には苦労する。3,000 円のチケットで 200 人集客するのが大変な地域である。予算的にも絞りすぎずに、聴く耳を養うため、将来的に本当に「音を観るまち」と言えるような演目を行うのがいいのではないかと。

【事務局意見】

・委員各位のご意見も理解するが、市外の方々の鑑賞が多くなりすぎることによって、市民の方に、市民のための市民会館ではないのかという思いを持たせてしまうのは良くない。バランスは考えねばならない。

【委員意見】

・市民対象ということはあまり考えず、集客できることを考えたほうが良いのではないかと。市外からも集客できるのであれば、市民会館の知名度が上がることになり、先行投資にもなる。

【委員意見】

・文化的アプローチをするのか、経済的アプローチをするのかの二択である。経済的アプローチをして採算のとれる公演をするならば、市外の人を対象にしないと不可能である。文化的アプローチをするならば、市の出資が必要である。

・今後も含め、どういう考えで運営していくのかは指定管理者が決まってからでなく今から議論しなければならない。

【委員意見】

・昨年の検討委員会でも、広範囲から集客できるようにしなければ、という議論もあった。近

郊からも来ていただける魅力ある施設を目指すのが良いだろう。

【委員意見】

- ・予算がかかる演目を招聘するのに躊躇する理由は、地域的に集客が難しいと感じられるからではないか。今候補に上がっている海外オーケストラは、音楽に詳しい人から見れば知名度があるが、一般的には知らない方のほうが多い。

【委員意見】

- ・市民会館が建て替えられることは市民にも認知されており、期待もされているだろう。チケットを売るのは大変だが、大変だからといって諦めてはホールが生きない。極端なことを言えば、世界 3 テノール歌手の公演ならば全国から集客できる。全国から人が集まっている様子を見て、それを良いと感じる市民が増えれば、市民へもと広がってゆく。ホールが宝の持ち腐れにならないようにせねばならない。

【委員意見】

- ・駅に近いことが利点であると発言した議員もいらっしやったので、市外からの集客も考えられているだろう。市民だけを見ていては発展しない。

【委員意見】

- ・市民会館は交流人口を増やす武器になる。この周辺で 1,200 席のホールは観音寺しかないので、どんどん市外から集客することも重要だと思う。

【委員意見】

- ・交流人口が増え商店街が潤えば、音楽や文化が地域の利益につながると知った人たちを引き込むことが出来る。そうして振り向かせないと育っていかない。

【事務局意見】

- ・各委員は市民の代表として本委員会で検討を行っているが、委員でない市民からも関心を持たれている。そういった思いも汲み取らなくてはならない。お金がかかるから事業ができないというわけではないが、バランスの問題はある。

【委員意見】

- ・採算がとれるのであれば市民からの不満は出ないだろう。

【委員意見】

- ・一番避けねばならないのは、施設を使う人がいないことである。成功するように頑張ってやらねばならない。
- ・都会のように一定のマーケットがあるわけではない。市の立場もわかるが、新たな市民会館で事業を行い、掘り起こしていかねばならない。

【委員意見】

- ・私の知人は、ある公演に行ったことをきっかけに全国のコンサートへ行くようになった。良い物を知れば熱心になる人もいる。掘り起こすことは必要である。

【委員意見】

- ・ホールができて数年経つと、稼働率が問題になるだろう。クラシックファンの人は、サンポート高松や岡山シンフォニーホールよりも倉敷市民会館に聴きにいく。何年かするとホールの色付けがされるので、そこも考えた方がよい。国内オーケストラ A やそれ以上に知名度のあるオーケストラでないと集客が難しいのではないか。

【委員意見】

- ・予算については、今は考えずに議論をしていただければと思う。ただし、満席となることは前提として考えていただきたい。

【事務局意見】

- ・新市民会館が目指すところは、地域に根付いている文化を振興すること、創造し新しいものを生み出すことである。そのためには、用がなくても立ち寄れる施設になることを目指している。
- ・基本的には人が集まる施設であると解釈している。予算や、市内・市外は関係なく人が集まる演目が行えればと思う。

【委員意見】

- ・前市民会館では劇団 A が 4 年間に渡り公演を行った。一見手の届かないような出演者・公演団体であっても、ホールを気に入ってくれば次に繋がることもある。

【委員意見】

- ・最初に呼んだものがコンセプトとして認知される。そのコンセプトを作るという発想がなければ、議論しても決まらない。

【委員意見】

- ・予算のこともあるが、今しかできないもの、また交流施設として市外、県外から集客でき、それをみて市民が触発されるということを期待した方がいいのではないか。
- ・今までの市民会館のイメージを変えるということは重要である。これは開館記念事業であり、この他にも事業は行われる。まずは、思い切って事業をやらねば、わくわくしないのではないか。

【委員意見】

- ・国内オーケストラ A は将来的に公演を行うことも期待できるだろう。
- ・海外オーケストラ A は、市外からの集客が見込めるのではないか。

【委員意見】

- ・海外で「あのホールは良かった」と演奏者が広めてくれることもある。

【委員意見】

- ・先程、「用事のない人でも立ち寄れる施設」というご発言があったが、音楽だけでなく他のことについても議論したい。また、本委員会は実行委員会なので、前向きに実名を挙げていくべきではないか。

【事務局回答】

- ・まずは音楽系の事業から議論をお願いした。
- ・名前があがった演目について、話を詰める、詰めないなどのご意見をいただきたい。

【委員意見】

- ・演目 A を挙げたが、私が観たのは指揮者 A が指揮をされているものだった。音楽に興味のない方でも、観るとどうやって音が表現されているのかがわかる。

【委員意見】

- ・オーケストラは目玉として、1 公演は行うということを考えてはどうか。

【委員意見】

- ・値段が不明なので、事務局に当たっていただければいいか。個人的には、海外オーケストラ A、海外オーケストラ B、海外オーケストラ D、国内オーケストラ A 等に当たっていただければと思う。

【委員意見】

- ・以前よさこい踊りで、一番のチームを呼んだことがあるが、レベルの違いに衝撃を受けた。そのくらいに良いオーケストラを呼びたい。

【委員意見】

- ・その他の公演についてはご意見があるか。

【委員意見】

- ・公演 A は、市民が参加することを前提として考えていた。出演者が決まっているならば、難しいのではないか。

【委員意見】

- ・前回推薦したポップス系アーティストについては、可能かどうかを調べていただきたい。

【委員意見】

- ・ポップス系アーティストを 1 名推薦。

【委員意見】

- ・今の委員会の開催ペースで間に合うのか。

【事務局回答】

・必要に応じて月に複数回行うこともできる。ご希望があれば日程を詰めさせていただく。

(3)その他について

【事務局】

・次回は、10月27日(火)19時から観音寺市役所2階会議室にて開催を予定している。

4. 閉会

閉会のあいさつ。

以上